

一般社団法人 関東地域づくり協会
(旧 社団法人 関東建設弘済会)

協会だより



第 **2** 号…平成25年11月

関東地域づくり協会からのお知らせ

3

第三者による品質証明制度の試行が始まる

平成24年度優良業務・優秀技術者表彰を受賞
 災害復旧事業技術講習会を開催
 関東地方防災エキスパート事務局からのお知らせ
 「夏休み！親子で学べる道づくりツアー」に協力
 第26回 道のある風景写真コンクール（審査会）
 平成25年度 公益事業紹介

プロジェクトK²⁰

8

渋滞解消と交通安全のため
改築に力を注ぐ

国道6号 松戸区間二次改築

関東ふるさと鉄道¹⁷

12

いすみ鉄道 千葉県

関東の土木遺産²⁰

14

二ヶ領用水 神奈川県

会員のひろば

16

趣味としての蕎麦打ち

18

総合地震防災訓練を実施しました
 市川市総合防災訓練「防災ひろば」でパネル展示を行いました

会員情報

19

新会員紹介・退職者紹介・お悔やみ
 編集委員会だより



表紙の言葉

高橋徹氏（元利根川水系総合調査事務所 所長）

瓶子（みすず）の滝

群馬県高崎市にある榛名神社参道の榛名川に落ち込む瓶子の滝です。最近、パワースポットとしても有名な榛名神社は、若い人たちの間では幸せを呼び込むパワーが強いと話題になっているのだとか。近くには建設省（当時）が昭和30年に建設した高さ17mの堰堤で国の登録有形文化財である「榛名川上流砂防堰堤」もあります。

第三者による品質証明制度の試行が始まる

国土交通省は、公共工事への「第三者による品質証明制度」を平成25～26年度の2カ年で試行する方針を定めました。

関東地方整備局管内で第三者として協力を求める企業・団体は当会を含めて8企業・団体となっています。

関東地域づくり協会では、資格要件・実務要件を満たす82名を品質証明者として配置しました。10月25日には研修会も実施され、業務の体制を整えています。

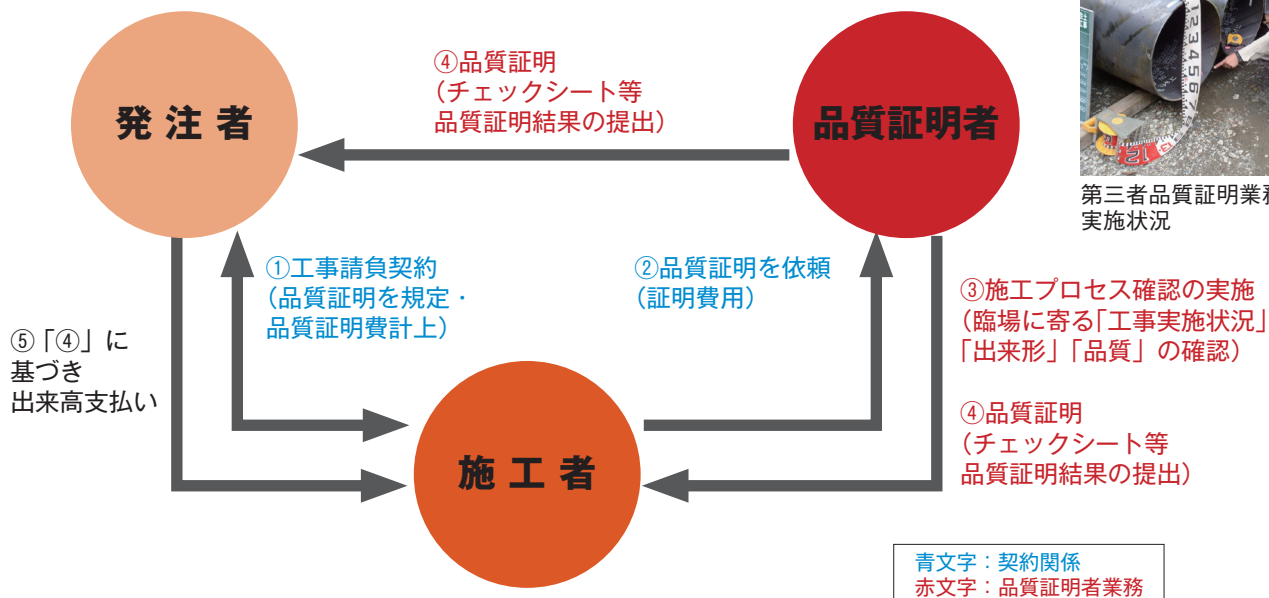
この制度では、発注者・施工者以外の第三者が、工事の実施状況、出来形、品質の確認などを実施して品質証明を行い、受・

発注者両者の負担を軽減し、業務の効率化や工事品質の向上に寄与するものです。現時点で試行対象工事は、一般土木工事11件、PC（プレストレスト・コンクリート）工事4件、アスファルト舗装工事3件の計18件に適用される予定です。関東地域で最初の試行対象工事は、「H25中部横断江尻窪発生土搬入場整備（その1）工事」（甲府河川国道事務所発注）で、当会が施工会社と品質証明業務の契約を行い、業務を進めているところです。

10月25日に開催された研修会の様子



第三者による品質証明制度のイメージ



第三者品質証明業務
実施状況

平成24年度優良業務・優秀技術者表彰を受賞しました！

関東地方整備局の優良業務・優秀技術者表彰制度は平成3年度から行われています。業務への取り組みおよびその成果が優秀であり、他の模範となるものを表彰することにより、技術力の向上および円滑に事業が推進されることを目的としています。

関東地域づくり協会では本年、事務所長表彰として平成24年度川崎国道事務所施工プロセス・施工体制調査業務が受賞しました。



優秀技術者 内藤安雄
(神奈川支部)

災害復旧事業技術講習会を開催しました

関東地域づくり協会は千葉県建設技術センターと共同で、7月31日東京国立博物館平成館大講堂(東京都台東区)にて「災害復旧事業技術講習会」を開催しました。自然災害が発生した際には、被災した施設の早期復旧が重要になります。その際、各種

申請資料などの作成時に必要な技術・制度などについて理解を深めてもらう目的です。当日は約350名もの方々に参加いただき、講習会は大盛況のうちに幕を閉じました。



講習会概要

主催：一般社団法人 関東地域づくり協会
公益財団法人 千葉県建設技術センター
共催：一般社団法人 建設コンサルタンツ協会
関東支部
一般社団法人 全国測量設計業協会連合会
関東地区協議会・東京地区協議会
一般社団法人 全国地質調査業協会連合会
関東地質調査業協会
後援：国土交通省 関東地方整備局

「災害復旧事業制度と災害採択基本原則」

国土交通省水管理・国土保全局防災課災害査定官 馴松義昭氏

「災害復旧事業における留意事項について」

国土交通省関東地方整備局企画部防災対策官 高橋忠臣氏

「東北地方太平洋沖地震による 千葉県の河川災害と復旧状況」

千葉県県土整備部河川環境課主査 田畑啓介氏

「災害復旧工法事例」

(公社)全国防災協会災害復旧技術専門家 小林 豊氏

関東地方防災エキスパート事務局からのお知らせ

地震および風水害等の大発生または発生のおそれがある場合、専門的知識を持った防災エキスパートは被災状況の迅速な収集と通報および災害対応に関する支援活動をボランティアとして

行っています。
これらの活動に必要な講習会・訓練・講演会を、毎年実施しています。

平成 25 年度関東地方防災エキスパート講習会開催日

支部名	登録者数	実施日・時間	場所	備考
水戸支部	68 名	11月25日(月) 10:00~15:30	茨城県職業人材育成センター 茨城県水戸市水府町864-4	講習会・現場視察
宇都宮支部	59 名	11月26日(火) 10:00~16:00	ブライダルパレスあさの 栃木県日光市平ヶ崎188-1	講習会・現場視察
高崎支部	86 名	12月 4 日(水) 10:00~15:00	群馬県市町村会館 群馬県前橋市元総社町335	講習会・講演会
甲府支部	41 名	12月 6 日(金) 10:00~16:00	地場産業振興センター 山梨県甲府市東光寺3-13-25	講習会・現場視察
長野支部	35 名	11月29日(金) 10:30~17:00	JA長野県ビル 長野県長野市北石堂町1177-3	講習会・現場視察
大宮支部	217 名	12月 2 日(月) 10:30~15:00	東京臨海広域防災公園 [そなエリア東京] 東京都江東区有明3丁目8-35	講習会・講演会・ 現場視察
千葉支部	212 名			
東京支部	37 名			
神奈川支部	62 名			
四支部計	528 名			
合 計	817 名			

「夏休み！親子で学べる道づくりツアー」に協力しました

この度関東地域づくり協会では、土木学会が創立100周年記念事業の一つとして関東地方整備局や関東地域づくり協会、JTB、建設会社の協力のもと企画した、東京外かく環状道路(千葉県区間)の工事現場を見学するツアーに協力しました。

ツアーは「夏休み！親子で学べる道づくりツアー」と題し、小学4年生以上を対象として8月24日土曜日に実施されました。募集開始からわずか4日で完売しました。ツアーは、工事現場の見学を通じて、モノづくりの面白さ、道路や河川などの社会資本の果たす役割について、広く知ってもらうことを目的としています。

当日は当会の担当者が案内役を務めました。バス車内でのクイズ大会に始まり、トンネル(松戸市矢切地区)内へメッセージの書き

込みや、本物のコンクリートを使用したミニチュア作成、高所作業車への体験試乗など、内容は盛りだくさん。

ツアー後の参加者へのアンケートには、「普段は関わりがないが身近にあるものなので、とても勉強になりました」「多くの現場の方が親切に質問に答えてくださり、気持ちよく学習できました」など好意的な声が多く寄せられ、ほぼ全員が「社会資本整備への関心・理解が深まった」と答えました。



コンクリートのミニチュアを作成

外環の概要説明



トンネル内にメッセージを書き込み

コンクリートの圧縮実験



第26回 道のある風景 写真コンクール(審査会)

人と暮らしを支える道をテーマに、毎年開催しているこの写真コンクール。今回も小学生、中学生、高校生を対象に若い人たちから見た「道の風景」写真を募集しました。

第26回となる今年の審査会は10月15日に行われ、応募枚数は7783枚、応募人数は3681人でした。大宮そごう3F連絡通路にて、入賞作品展示会を行います。

展示期間：平成25年11月23日～12月2日



熱中症予防のかき氷が大人気

高所作業車に試乗



平成25年度 公益事業紹介

関東地域づくり協会が平成25年度に実施している公益事業の中から、
開催した事業の一部を紹介します。

里山再生を環境学習に活用した持続的環境保全および地域活性化

さなざわ里山だんだんの会

さなざわ里山だんだんの会は、関東地域づくり協会と群馬県みな
かみ町、みなかみ町真澤地区の全所帯の協力のもと、みなかみ町真
澤地区の地域づくり、環境づくりに取り組み、地域活性化、下流都
県との地域交流活動等の社会貢献を図るため活動しています。

6月2日(日)

農業体験(田植え)



水不足が
心配されていましたが、
どうにか水を引き込むことが
できました。



6月25日(火)

**みなかみ町立桃野小学校5学年の
皆さんの環境学習**



桃野小学校の
皆さんとの環境学習は
毎年恒例の
行事となりました。

10月13日(日)

農業体験(稲刈り)

約80人が参加して
収穫を行いました!



関東・水と緑の ネットワーク拠点百選

第5回の選定団体は以下の8団体です。平成21年度の第1回選定より今回までを合わせると70団体になります。

11月16日(土)には、選定委員である三島次郎先生(桜美林大学名誉教授)による環境講演会を開催しました。



申請地の現地調査



三島先生と今回選定された団体の皆さん

第5回選定団体

認定No.	場所	団体名	選定地の面積	所在地	活動開始時期
第5-063	サクラソウトラスト	NPO法人エンハンスネイチャー 荒川・江川	50,000㎡	埼玉県上尾市・桶川市	1990年 8月
第5-064	おおたかの森の再生地	おおたかの森トラスト	7,400㎡	埼玉県所沢市	1994年 6月
第5-065	小笠原国立公園小港園地 「小港海岸」	Kid's Lab. 小笠原	約20,000㎡	東京都小笠原村	2013年 9月
第5-066	押延ため池いこいの森	自然のみどりを守る会	33,523㎡	茨城県那珂郡東海村	2009年 4月
		とうかい環境村民会議 自然共生社会部会			2012年 4月
第5-067	社会福祉法人花畑福祉会 つくばこどもの森保育園	社会福祉法人花畑福祉会 つくばこどもの森保育園	2,800㎡	茨城県つくば市	2011年11月
第5-068	東京都北区立浮間小学校 「うきま里山」	東京都北区立浮間小学校	15,000㎡	東京都北区	2008年 4月
第5-069	戸田ヶ原自然再生エリア 第1号地	戸田市	6,240㎡	埼玉県戸田市	2007年 4月
第5-070	向山緑地・立野川源流域	向山緑地・立野川勉強会	約6,700㎡	東京都東久留米市	2012年 3月

平成25年度 市民防災まちづくり塾実行委員会 主な活動一覧

関東地域づくり協会と市民防災まちづくり塾実行委員会の共催のもと、防災施設の学習と見学会などを年間を通して実施しています。詳細は、市民防災まちづくり塾のウェブサイトをご覧ください。

<http://miduka-npo-tmic.org/simin-bousai/intro.php>



宮ヶ瀬ダム見学会

見学会名	場所	日時	参加人数
東京駅地下水対策と復元駅舎見学会	東京駅	4月25日(木)	49名
第62回利根川水系連合水防演習見学会	千葉県香取市佐原口地先 利根川河川敷	5月18日(土)	41名
上野駅・東京駅地下水対策と復元駅舎見学会	上野駅・東京駅	5月20日(月)	53名
利根川源流探検	矢木沢ダム外	6月22日(土)	46名
荒川河川敷避難体験キャンプ	荒川ロックゲート周辺	7月20日(土) ~21日(日)	32名
渡良瀬川上流を訪ねる	草木ダム・足尾銅山外	8月11日(日)	43名
荒川中流第一調整池見学会	第一調整池・彩湖	9月7日(土)	39名
宮ヶ瀬ダム見学会	宮ヶ瀬ダム	10月13日(日)	46名
ハッ場ダム・品木ダム見学会	品木ダム・ハッ場ダム	11月9日(土) ~10日(日)	31名

渋滞解消と交通安全のため 改築に力を注ぐ

国道6号 松戸区間二次改築

会員の方々に携わったプロジェクトの地を再訪していただき、
苦労や喜び、エピソードさらには事業全体の効果などを語っていただく本シリーズ。
第20回は国道6号の改築工事に携わった
川路正行さん、小淵榮二さんにお話を伺いました。



川路正行さん

関東建設マネジメント株式会社 専務取締役。昭和36(1961)年入省。北陸地方整備局道路部長等を経て退職後、関東建設弘済会専務理事。今年から現職。

小淵榮二さん

昭和35(1960)年入省。菟原ダム工事事務所を経て首都国道工事事務所へ。その後は関東各地で道路建設、管理に携わる。囲碁、将棋、麻雀、浪曲、ゴルフと多趣味。

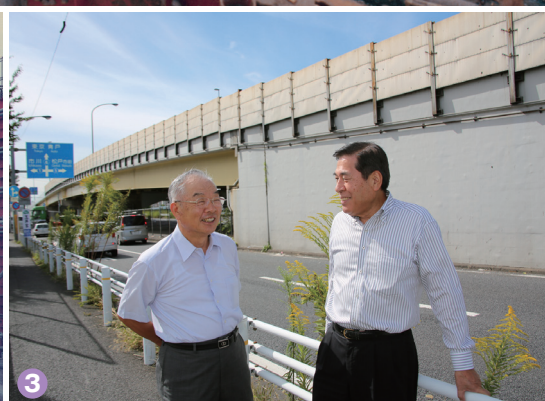




1



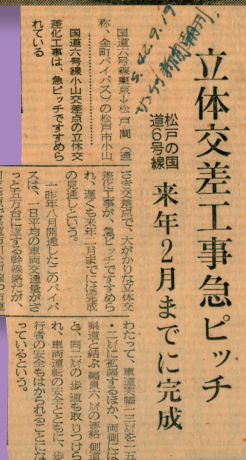
2



3



4



- ① ② 昭和42年、小山立体（小山跨道橋）上部工の施工が始まった
- ③ 現場に来ると当時の思い出がよみがえる
- ④ 小山立体工事の様子を伝える当時の新聞（昭和42年9月19日産経新聞朝刊）

全線で改築工事が進行 事務所全体が活気に満ちていた

国道6号は、江戸時代の要路である水戸街道および陸前浜街道の経路を引き継いだ幹線道路である。延長は約359.3km、東京都の日本橋を起点に千葉県西北部、茨城県・福島県の海岸線沿いを経て宮城県仙台市に至る。福島第一原子力発電所の事故の影響により、現在は福島県内の一部で交通が規制されている。

首都国道事務所（旧：首都国道工事事務所）が改築工事を担当している東京都から茨城県の区間では、昭和16（1941）年から現道を車が通れる道に整備する一次改築、昭和36（1961）年からはバイパス建設や拡幅により利用しやすいよう改築する二次改築が相次いで進められた。もともとの街道は幅員が4～5mほどしかないところも多く、急激に増加する自動車交通量に対応できないことは明らかだったからだ。

川路正行さんは昭和36（1961）年4月から昭和46（1971）年12月まで、小淵榮二さんは昭和41（1966）年2月から昭和49（1974）年9月まで、共に首都国道工事事

務所に所属し、この改築工事に携わった。川路さんは入省して最初の現場、小淵さんにとってはダムから道路の現場へと異動した初めての地であり、二人にとっては多くの思い出が残っている。当時、首都国道工事事務所には出張所が常時4～5つあり、同時並行でいくつもの現場の改築が進んでいた。中でも記憶に強く刻まれているのは金町出張所時代、昭和42年頃のことである（小淵さんは昭和41～43年、川路さんは昭和42年に所属）。

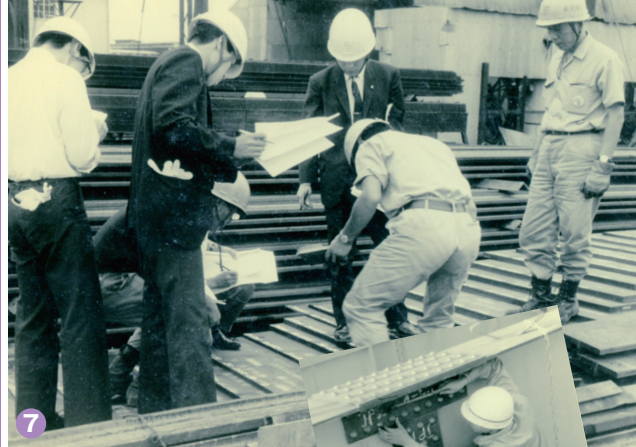
当時、工事はまさに佳境に入っており、金町出張所には15人ほどが所属。毎朝、江戸川の東京側の高架下にあった出張所で朝礼をしてから、オープントラックに乗ってそれぞれの現場に向かった。夜中に架設作業をすることも多く、そのときは交通整理などのために、川路さんや小淵さんをはじめとする若手職員ばかりか、所長も一緒に泊まり込んだ。金町出張所に集う人は、ひときわ仲がよかった。

「当時はお金がなかったから、昼休みや夜には出張所で仲間とトランプや麻雀、囲碁、将棋、花札といろいろなことをして遊びました。当時はレクリエーションも盛んで、休日には出張所対抗のソフトボール大会なんかも



⑦ 施工の前には入念に材料検査を行った(小山立体)

⑧ リベットの確認をする川路さん



⑤⑥ 完成から40年以上。「地震が来ると今でも心配になります。きちんと補強がされていてほっとしました」と川路さん。耐震補強や塗装の補修がされ、小山立体は今も無事に使用されている



⑨ 小山立体開通式の様子。「当時は、今よりもずいぶん質素な式でした」(川路さん)

あったんですよ」と懐かしむのは小淵さん。「小淵さんは明るくて、ムードメーカーでしたね。私は酒が飲めないから飲み会ではもっぱら幹事役。それも楽しい思い出です」と川路さんも笑みを見せる。矢切地区でバケツいっぱいにとじょうがとれたため、事務所長などを招いて宴会をすることもあり、その集まりを「とじょう会」と名付け、旅行に行くなど親睦を深めるきっかけになった。

話が金町出張所の所長であった青島實さんのことに及ぶと、二人の目は輝く。

「青島所長は、ご自身がよく現場に足を運ばれましたから、工事の全体が分かっていた。だから決断が早いし、指示も的確。また、若手職員にも請負業者にも分け隔てなく声をかけ、何かと話を聞いてくれました。勤めて間もない若い頃に、青島さんのような上司に会えたことは大きな財産です」(川路さん)

「親分肌でね、遊びのことも仕事のことも、自分から率先して参加してくれる。現場監督をしていたのですが、青島所長のバックアップのおかげで仕事はやりやすかったです」と小淵さんも大きく頷く。

安全確保と、苦情への対応に奔走した日々

川路さんが担当した中で、特に記憶に残っているのは小山立体(小山跨道橋)だ。

「私が金町出張所にいたのは10カ月だけだったので

が、その期間で上部工の設計から施工まで手がけることができたのです。自分で設計したものだから、余計にきちんと仕上げたくて力が入りました。施工監督として現場に行っても、作業員と同じくらい作業したのを覚えています」(川路さん)

小山立体工事の現場は中学校の目の前であり、安全面には特に気を使った。道路交通の安全を確保するのが立体工事の目的の一つでもあり、その作業中に事故があっては元も子もないからだ。

工事のために、それまで見えていた信号が見えなくなったという苦情もあり、そのときはすぐに新しい信号を取り付けた。痛感したのは、交通管理者つまり警察署との連携の大切さと川路さんは言う。松戸警察署には頻繁に顔を出して、現場の責任者としてコミュニケーションを図ったそうだ。「大きな事故なく現場を終えることができたのが幸いでした」と当時を振り返る。

一方、小淵さんが担当したのは主に道路の拡幅である。国道6号は、2車線しかなかったその当時でも、既に毎時2万台の交通量があったという。その道路の脇を掘り下げ、土砂を流し込んで拡幅するのだが、これが想像以上に大変だった。

「トラックで運んで来た土砂を下ろすとき、どうしても道路を完全に塞いでしまうことになるのです。私が担当した箇所は迂回路がないところが多くて、土砂を入れるたびに渋滞が起きる。これが何kmも続くのですから



⑩ 国道6号沿線の地形は、水田や山、湿地などがあり起伏に富む。拡幅のためには法面盛土することも多かった。松戸市根本内の地点では、5mも土を盛った。歩道は道路より少し下に通し、土手が崩れるのを防いでいる

⑪ 4車線に拡幅した道路。(松戸市中根)

⑫ 東京外かく環状道路の情報を提供する外環松戸相談所にて。国道6号とも交差する外環千葉県区間は平成27年開通予定だ。以前、用地の説明会も担当したという川路さんは感慨もひとしお



ね。苦情も多かったですよ」(小渕さん)

渋滞を解消するための工事で渋滞が起きるというジレンマに、住民も現場の人々も悩まされた。

また、国道6号沿いは元来、山や田畑が多く起伏に富んでいる。拡幅に当たっても、現場は平坦な場所ばかりではなく、その場の地形に合った施工方法が求められた。例えば、道路の両サイドが低い場所では、道幅を広げるため、大規模な盛土を必要とした。

「松戸市根本内地区は最も高低差があるところで、5mほど土を盛りました。しかし、あまり盛りすぎると、土自体の重みで、土手が脇に流れて崩れてしまう。そこで、法尻の盛りの部分が軟弱なため滑り防止の抑え盛土を行い、歩道を路面より下げて安定した盛土断面とした思い出があり、現在まで40数年当時と同じ状態を保っており安心しました」(小渕さん)

様変わりした風景 交通量は増加の一途

かつての現場を車で走った。国道6号は平日の昼間でも、大型車から小型車までかなりの交通量だ。まだ上下1車線ずつしかなかった改築前も同じくらい車が走っていたというから、相当混雑しただろう。

「ずいぶん変わったねえ」と、窓からの景色に感嘆の声。田畑の多くは埋め立てられ、山は切り開かれ、大型店舗やマンション、住宅が立ち並んでいる。当時はま

だまだのんびりとした田舎の風景が残っていそうだった。

道路を見ながら「ちょっと歩道が狭いね」と小渕さんは言う。既に国で取得していた用地を使って、最大限の効果を挙げようとした結果だ。用地を新たに取得しようとするとしても時間がかかる。それよりも当時は、工期を短くすることと渋滞解消のため早く4車線化することを優先したのだ。

「国道6号は当時も、地域の人々にとっては欠かせない生活道路でしたから、工事が長期間にわたると苦情ももっと増えたでしょうね」(小渕さん)

生活道路の改修は、地域との調整の連続だ。今まで自由に通行していた沿道も、決まったところからしか出入りできなくなる。歩道の幅を広くしてほしい、ここに入出口を付けてほしいと、近隣の住民からはさまざまな要望が寄せられるが、すべてを叶えることはできない。国道6号改築工事の最大の目的は、国道として十分機能を果たすよう整備し、渋滞の解消、交通の安全を図ること。この目的のために、川路さん、小渕さんをはじめ、多くの人々が手を尽くしたのである。

「すべての人から、とはいきませんが、最大公約数の評価を得ることはできたのではないのでしょうか。地域の人から反対されては、道路は造れません。地域に密着した行政の大切さを改めて感じますね」(川路さん)

国道6号は今もなお、生活と産業を支える重要な幹線並路となっている。

緑豊かな里山を走る



緑豊かな田園を走るいすみ300形



いすみ鉄道

今回のふるさと鉄道は、千葉県いすみ市の大原駅と大多喜町の上総中野駅を結ぶ26.8kmのいすみ鉄道です。豊かな自然や大多喜城のある古い町並みが残る沿線を走ります。

大多喜城といすみ鉄道



菜の花をイメージした車両のデザイン

JR東京駅から外房線で約3時間。JR大原駅のホームには通学途中の高校生の話し声や笑い声が響く。その姿を見送りながらJR大原駅に併設するいすみ鉄道の改札を通ると、先ほどの賑やかさとは対照的な、のどかで穏やかな雰囲気が漂う。黄色の車体に緑色のラインが走る車両もその雰囲気を醸す要素の一つだろう。車両のデザインは沿線周辺に咲く、菜の花をイメージしている。

出発まであと20分。出発が近づくにつれ、ホームは徐々に観光客で賑わってきた。皆、車両を撮影したり広い座席でパンフレットを眺めたりと、平日とは思えないゆったり

した時間が過ぎる。

いすみ鉄道は昭和5（1930）年、国鉄木原線きはらとして大原駅と大多喜駅間がまず開通した。もともとは国鉄久留里線（現：JR久留里線）の始発駅である木更津駅と国鉄木原線の大原駅を結ぶ鉄道として計画され、路線名も木更津駅の“木”と大原駅の“原”を取って名付けられたという。しかしその計画は実現せず、路線名だけが残った。

昭和9（1934）年に上総中野駅まで開通。その後、約50年にわたって運行してきた国鉄木原線だったが、利用者が少ないことを理由に昭和56（1981）年、路線の廃止とバス・第三セクターへの転換が決まる。昭和63（1988）年3月23日、国鉄木原線は廃止されたが、翌日から、地元の自治体などが出資した第三セクターのいすみ鉄道株式会社として新たなスタートを切った。



上総中野駅で折り返し運転を待ついすみ300形



徳川四天王のひとりである本多忠勝を
初代城主とする大多喜城。
現在は博物館になっている



江戸時代の商家の帳場を再現した商い資料館



青龍日吉神社。
境内にはねじれ杉が三本並ぶ



JR久留里線から譲り受け
国吉駅に留置されているキハ30形



商家造り家屋の渡辺家住宅。
国の重要文化財に指定されている

“ムーミン列車” と銘打ち 話題になる

いすみ鉄道に引き継がれた後も利用者や収益の減少が続き、平成19(2007)年、地元自治体が運営するいすみ鉄道再生会議で「平成20年度、21年度を検証期間として、再生の方向性を客観的に判断する」つまり廃止することが決められた。その状況を救ったのが、民間公募により平成21(2009)年に就任した鳥塚亮社長である。鳥塚社長は就任直後に“ムーミン列車”の導入を発表。ムーミンのイラストを車体にプリントした車両の運行や日本で初めてとなる駅中ムーミンショップ「ぶあれーういんず」をオープン。これらの取り組みは多くの女性の関心を集め、次第に観光客が訪れるようになった。わずかな時間で着実に集客率を上げ、翌年の8月、ついにいすみ鉄道の存続が決まった。

た。

大原駅を出て、しばらく広大な田園風景を眺めていたが、上総東駅を過ぎると車両は突然森の中へと入っていく。森の小径を走る一両編成の車両は軽やかに線路を駆け抜ける。すると再び視界は開け、「風そよぐ谷 国吉駅」に停車する。駅名から、ムーミンが住む谷をだれもが思い出すはず。観光客のほとんどは一度この駅で降りるといふ。ホームではムーミンが出迎えてくれた。

国吉駅を出てしばらくすると田園から城下町へと景色は変わる。大多喜駅からは大多喜城が遠望でき、現在も城下町の面影を残している。さらに進むと再び森の中を駆け、あっという間に終点到着した。小湊鐵道が乗り入れる上総中野駅である。その先を目指す乗客を見送りながら、電車はまたゆったりと戻っていった。

ナビゲーター 用地第二支部 柴崎好男さん

初めていすみ鉄道に乗りました。車窓からの景色を楽しむことができ、いつもとは違った雰囲気を感じました。途中下車した大多喜駅には城下町の町並みが残っていて、とても風情がありました。



農業用水として 川崎領と稲毛領の二ヶ領を潤す

二ヶ領用水は神奈川県川崎市の多摩区から幸区を流れる、全長約18.4kmの人工用水路です。多摩川の上河原堰(多摩区布田)と宿河原堰(多摩区宿河原)から取水し、JR南武線の久地駅付近で合流。その後、久地円筒分水で再び分かれ、幸区方面に向かいます。

その歴史の始まりは、江戸時代まで遡ります。

多摩川は古くから“あばれ川”として有名で、幾度となく洪水を繰り返していました。そのため、川沿いの平坦地部分でも水利が悪く、取水は困難を極めました。特に1589(天正17)年と翌年には多摩川の流路が大きく変わるほどの大洪水が起き、甚大な被害を被った下流域では、農民の生活は一層苦しくなりました。そこで開削されることになったのが、二ヶ領用水です。^{たちばな}橘樹郡北部(現在の川崎市付近)に位置していた川崎領と稲毛領の二ヶ領に水を引き、新田開発を進めることが目的でした。

二ヶ領用水の開削は、1597(慶長2)年の川崎領測量を皮切りとし、2年後には普請が開始されました。開削工事を指揮したのは、徳川家康の家臣であった小泉次大夫

です。家康は次大夫に二ヶ領の用水工事を許可するとともに、対岸の世田谷領と六郷領を流れる六郷用水の工事にも指示。二ヶ領用水と六郷用水は約3カ月交替で工事が進められたため、用水開削事業に従事した農民たちは3カ月おきに場所を移し、クワで掘りモッコで土を運び上げる作業を続けたのです。

1611(慶長16)年、14年の歳月をかけて二ヶ領用水は完成しました。完成当初、取水口は上河原だけでしたが、下流の農民にもより多くの水を流すため、宿河原にもう一つの取水口が設けられました。1629(寛永6)年のことです。2カ所から多摩川の水を取り入れたことで水利事情が良くなり、新しい耕地が増加。米の収穫量も劇的に伸びました。二ヶ領用水は農業用水として川崎の発展を支えたのです。完成から約100年後の1717(享保2)年には、二ヶ領用水による稲毛領と川崎領の灌漑面積は2007町歩(1町歩=約9920㎡)もあったとされています。

産業革命で 農業用水から工業用水へ

明治後期になると、多摩川下流沿岸や臨海地区の開発が始まり、セメントや自動車会社の工場が続々と建設され



関東の土木遺産 第20回

400年以上にわたり川崎を支える

二ヶ領用水

神奈川県

土木学会では現存する貴重な土木構造物を調査し、「日本の近代土木遺産」として発表しています。



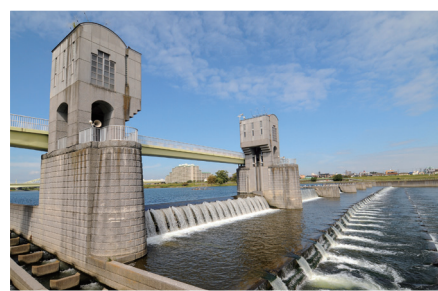
それらの土木遺産の中でも特に価値あるとされるのが選奨土木遺産。関東地方の選奨土木遺産を訪ねての旅。第20回は神奈川県川崎市多摩区から同市幸区を流れる二ヶ領用水です。

緑豊かな二ヶ領用水。
遊歩道の脇には桜の木が並ぶ



二ヶ領上河原堰堤。
昭和20年にコンクリート堰になった

二ヶ領宿河原堰堤



ました。昭和初期には戦争の影響で軍需工場が進出。多くの工場が誕生したため、工業用水に利用していた地下水が枯渇し始め、新たな水源が必要になったのです。そこで二ヶ領用水は工業用水としての役割も果たすようになりました。その後も工業化の勢いは止まらず、農業用水としての利用は減少していきました。さらに高度経済成長が追い風となり、東京に近い多摩地域には宅地が広がり、人口が増加。その結果、洗剤などの生活排水や化学薬品などの工業排水の影響で、多摩川だけでなく二ヶ領用水の水質も悪化していったのです。ヘドロがたまり悪臭を放つようになってしまった水路もあったといえます。

このように、時代の変化とともに農業、工業、生活用水としての役目を担ってきた二ヶ領用水ですが、近年新しい役割が模索され始めました。歴史ある二ヶ領用水を潤いや憩いの空間として、また、災害時に活用できる都市用水として再生しようと、用水再生へ向けた市民運動が高まったのです。

親水工事を経て 市民に愛される用水に変身

1984（昭和59）年には親水護岸工事が開始。それま

で転落防止のために設置されていた高いフェンスは撤去され、水際を歩ける部分も誕生しました。また、汚染の原因となっていた生活排水や工業排水が用水路に混ざらないよう、下水道を整備。そのおかげで悪臭は消え、透き通るようなきれいな水が流れるようになったのです。遊歩道に下りると、悠々と泳ぐ魚の姿を間近で見ることができます。

土木学会は二ヶ領用水を選奨土木遺産に選定した理由を「多摩川流域で最古、最大の農業用水であり、江戸時代に造られたもので用水の機能が現在まで残されている貴重な土木遺産である」と述べています。また、二ヶ領用水を管理する川崎市では「二ヶ領用水と同時期に開削された多摩川左岸の六郷用水は、そのほとんどが埋められてなくなっている。それとを比較すると、二ヶ領用水の歴史的価値は高い」とし、「行政と市民が協力して二ヶ領用水の現状を保ち、後世に受け継ぐための維持管理をしっかりとやっていきたい」との展望を掲げています。

2011年に開削400年を迎えた二ヶ領用水。時代を越えさまざまな形で活躍してきた用水ですが、今後は市民に愛される憩いの場としての役目を担っていくようです。

協力：川崎市建設緑政局計画部企画課



円筒分水ができる前の
久地分量樋。
明治43年4月に撮影された
竣成記念写真
（『稲毛川崎二ヶ領用水事績』より）



二ヶ領用水の合流地点。
久地駅付近



昭和16年築造の
久地円筒分水。
久地駅付近で合流した用水は
ここで4つの用水堀に
分水される。
平成10年に
国の登録有形文化財となった

中野島駅付近にある草堰。
草や枝をからませる役割を果たす



親水護岸工事
（昭和61年頃の様子）

宿河原堰のすぐそばにある
二ヶ領宿河原堰管理事務所・
二ヶ領せせらぎ館。
水防活動資材を備蓄するほか
二ヶ領用水の歴史・文化に関する
情報発信も行っている



蕎麦打ちとの出会い

子供の頃田舎で、収穫した玄蕎麦を水車で蕎麦粉にして、年寄りが打った蕎麦を家族全員で食した思い出がある。

伝統的な食文化の一つである蕎麦は、シンプルな食べ物だ。蕎麦粉と小麦粉と水を使用して細く長く仕上げるだけであるが、そこにこだわりが入ることで、趣味としての「蕎麦打ち」になる。

いつもの蕎麦粉でも含まれる水分量も微妙に変化しているし、作業する日の気温と湿度も影響する。その日の健康状態と気合の入り方も、麺の出来上がりに現れる。未だに満足する蕎麦を打った経験はなく、毎回反省点が残ってしまう。

蕎麦打ちは、一般的に江戸流の打ち方が主流になっている。無駄を少なくするために四角に延ばす打ち方である。12年前に「栃木のうまい蕎麦を食べる会」（栃蕎麦の会）に入会後、同会主催の講習会において、副会長で

ある宇都宮市内の蕎麦店店主の指導を受けることができた。店主は、福島県会津若松市の有名な蕎麦処の道場で修行して研鑽したそうである。その店主が指導して育てた人を紹介してくれたのが自分の師匠である。

「木鉢三年、延し三月、切り三日」と言われているように、最初の水回しと練りの作業をしっかりと行うことにより、長い麺が出来上がる。麺切りの作業では、同じように切り揃えることが大事である（不揃いの麺は、茹でムラが出ておいしくない）。茹でる作業も大切であり、氷水につけることで麺にコシが出て食感の良い蕎麦になる。

蕎麦専用の冷蔵庫は既に持っていたが、退職した翌月には、庭の片隅に日曜大工で一坪の蕎麦小屋を建てた。これで、いつでも蕎麦打ちができる環境になった。二八蕎麦から始めて今は九一蕎麦を打っているが、いずれは十割蕎麦にも挑戦したいと思っている。

「素人そば打ち段位認定大会」への参加

自分の蕎麦打ち技術がどのレベルかを試す意味もあり、「全国麺類文化地域間交流推進協議会」（全麺協）主催の「素人そば打ち段位認定大会」に3回参加した。大会は一同礼の後、審査委員長を含む5人の審査委員による各受験者（1回12人）の服装や両手の裏表の検査（爪の長さ、傷の有無等）が済むと、「はじめ」の合図により、手洗いから始まり一連の作業が完了して後片付けまで含めて40分間の審査会である。

電光掲示板の時間の経過が苛立しく、焦りも出てくる。5人の審査委員が回り、作業態度から道具の使用状況等の点数（減点法）を付けながら回り、切りの作業に入ると真後ろに回って、麺台の高さに視線を下げて包丁さばきまで確認する。麺の細さ、長さ、切り揃え率、筏の有無等仕上

趣味としての 蕎麦打ち



福島 昇

元関東地方整備局 宇都宮国道工事事務所 副所長

がりの審査を終えて、一同礼で終了する。時間中の会場内は、常に審査委員が回り、周囲には多くの観客が静かに見守っている中で、蕎麦打ちの音だけがする緊張感もあったが、あの雰囲気は良き思い出である。

3回目の認定大会は埼玉県伊奈町で開催されて、上野の「上野藪蕎麦」主人が審査委員長だった。大会終了後の審査結果発表前に、審査委員長の厳しい講評内容を聞いて、ほとんどの受験者が下向き状態で聞き入っていた。その大会は、過去にはない低い合格率(43%)であったが、自分のゼッケン番号32番を聞いてホッとした。

栃木県シルバー大学校の クラブ活動

栃木県シルバー大学校に入学し、蕎麦打ちクラブに入部することができた。蕎麦打ち会場の関係で入部定員を限定したところ、5分で募集を締め切るほどの人気クラブであった。2年間、蕎麦打ちクラブで指導をした関係で、多くのクラブ員と知り合うこともできた。

その中の一人に、国道事務所当時何度も関係した県警出身者がいて、予期せぬ再会に感激した。これも、蕎麦打ちをしていたおかげだと思っている。

また、クラブ員の一人が「シルバー大に入って一番の成果は、蕎麦打ちができるようになったこと」と、冗談でもなさそうな喜びようで、これもうれしかった。その人の話では、自分で打った蕎麦を家族が、うまいと喜んでくれて自分の評価が上がったそうである。もっと上手になって親戚・友人にも振舞いたい、その人は真剣に取り組んでいた。

以降は、自画自賛になるかも知れないが、蕎麦打ちについて少し触れてみたい。全麵協篇『新・そば打ち教本』の内容を引用して蕎麦打ちの

魅力を紹介してみる。蕎麦打ちは「仲間づくり」「地域づくり」「自分づくり」を進める「愛情あふれる趣味」であると思う。そして、蕎麦打ちの技術を身につける「自己研鑽」、自分の心を修める「自己修練」であり、打った蕎麦を家族や知人友人に食べてもらうことは「深い愛情」が求められる作業であり、これはもう「蕎麦道」と言ってもよいと思っている。



蕎麦打ちで地域とのかかわり

シルバー大卒業後は、近傍の蕎麦好きが集まり愛好会を立ち上げ、近くの公共施設を借りて月2回の蕎麦打ちを楽しみながら、親睦を図り研鑽を積んでいる。また、地元の地域包括支援センターの要請で、年2回参加者の前でデモ打ちして蕎麦を振舞い、大いに喜ばれている。そして、毎年栃木県栃木市大平町のぶどう祭りでは、シルバー大蕎麦打ちクラブOB有志が出店し、来場者に打ちたての蕎麦を提供している。毎年来る常連客もあり、祭りも賑わって主催者からも感謝されている。

会員のひろばに登場してみませんか？

「会員のひろば」では、会員の皆さまからの投稿をお待ちしております！

内容はどんなものでも構いません。自分の小さな趣味やペットの話など、文章(800~2000文字)に写真数点を添えて、下記までお送りください。

たくさんのご応募、お待ちしております！

〒330-0843

さいたま市大宮区吉敷町4-262-16 マルキュービル9階
関東地域づくり協会

経理部 飯田芳夫(「協会だより」編集委員)

E-mail:iida12@kt-chkd.or.jp

総合地震防災訓練を実施しました

国土交通省関東地方整備局では、9月19日（木）、首都直下地震を想定した総合地震防災訓練を実施しました。

これに呼応して関東地域づくり協会においても、全職員および防災エキスパート登録者が参加し、家族の安否確認訓練や被災状況報告訓練、関東地方整備局への事務局員派遣訓練などを実施しました。

この訓練は、大規模災害時における当会の防災業務計画の検証、災害対応能力・防災意識の向上を目的とし、情報収集・集約・伝達などにおいて「シナリオに基づかない訓練」を行いました。



当日の訓練の様子

市川市総合防災訓練 「防災ひろば」でパネル展示を行いました

8月31日（土）に市川市の主催で開催された市川市総合防災訓練「防災ひろば」に、関東地域づくり協会が協力しました。この「防災ひろば」は、市民参加型の防災訓練であり、防災と減災の意識を高めることを目的として催されたものです。

当日は、初期消火訓練や炊き出し訓練、地震体験、

けむり体験と、子供から大人まで幅広く楽しみながら学べる内容で進行されました。

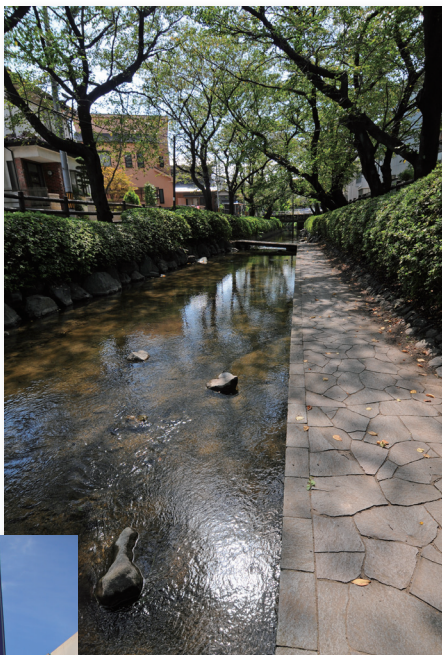
当会では、「忘れないで！ 東日本大震災パネル展」と題し、写真展示を行いました。さまざまな年代の方がブースを訪れ、配布した『東日本大震災記録』も大好評でした。



市民参加型の防災訓練



当会で制作した『東日本大震災記録』を
来場者に配付



ニヶ領用水



小山立体



いすみ鉄道